

秋田県における宅配便集配システムの変遷

井 崎 雄 一

キーワード：秋田県 宅配便 流通 集配システム

I はじめに

従来の宅配便を取り扱った研究は数少ない。富田・本間（1990）、佐藤（1999）は、それぞれ神奈川県と栃木県を事例として、宅配便集配システムの現況に焦点を当てている。仲山（1985）、佐藤（1988）は、宅配便サービスを詳細に説明した。

本研究ではヤマト運輸株式会社（以下、Y社とする）を事例として、秋田県における宅配便集配システムの変遷を明らかにする。

II Y社の概要

Y社は、1919年に東京都に設立された。同社は、宅配便事業を行う以前には、三井呉服店の商品配送¹⁾および東京－横浜間の定期積み合わせ事業²⁾を、主業務としていた。

Y社は路線事業に関しては、他の大手トラック企業のように、長距離路線の獲得に積極的ではなかった。その結果、同社は長距離路線部門では後発企業となった。このような理由によって、Y社は新分野の事業開拓を迫られることになった。その結果、1976年に宅配便が生み出された。

III Y社の宅配便集配システム

1. 取扱店

取扱店は、Y社の宅配便集荷システムの末端を担う（第1図）。多くの荷送人は、ここに荷物を持ち込む。すべての取扱店は委託によるものであり、委託を受けた一般小売店およびコンビニエンスストアなどがこれに当たる。

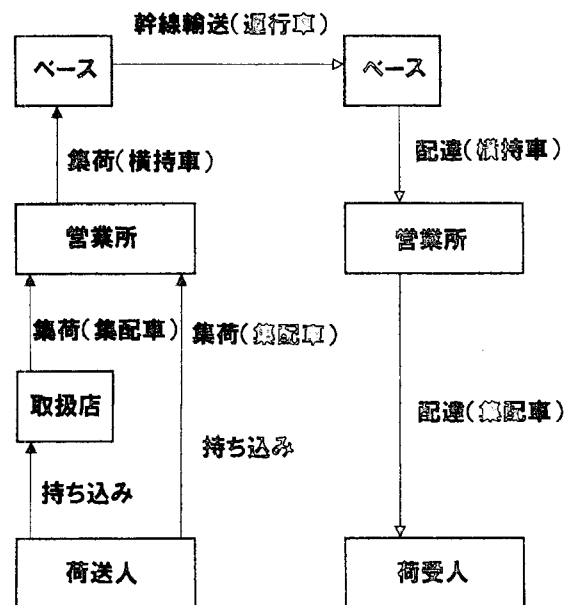
2. 営業所

営業所は、取扱店とベースの中継地点としての役割を果たしている。各営業所には集配車³⁾と、集配

作業を行うドライバーが配置されている。ドライバーは集配車を使用して、一般家庭、事業所および取扱店を巡回し、荷物を集荷する。同時に、ドライバーはベースから輸送されてきた荷物を、荷受人のもとへと届ける。

3. ベース

ベースとは、Y社の宅配便集配システムの骨格となるものであり、取扱店と営業所を経て集荷された荷物が、最終的に集まるターミナルである。ベース間の輸送を行うトラックを、運行車⁴⁾という。荷物が、異なる営業所の担当区域に輸送される場合には、必ずベースを経由して輸送が行われる。



第1図 Y社の宅配便流通機構（2003年）
（2003年1月聞き取り調査より作成）

第1表 秋田県における Y 社営業所の開設年次と担当区域（2003年）

営業所	所在地	開設年月日	担当区域	営業所	所在地	開設年月日	担当区域
飯島	秋田市	1981年9月1日	秋田市8地区	仁賀保	仁賀保町	1987年8月1日	仁賀保町・西目町・金浦町・象潟町
男鹿	男鹿市	1983年10月1日	男鹿市4地区	天王町	天王町	1988年4月27日	天王町・昭和町・若菜町・男鹿市3地区
能代	能代市	1984年4月1日	能代市全域	協和	協和町	1988年5月30日	協和町・神岡町・西仙北町・河辺町・雄和町
大館	大館市	1984年5月10日	大館市全域(一部の地域を除く)	森吉	森吉町	1988年12月28日	森吉町・上小阿仁村・合川町・阿仁町
本荘	本荘市	1984年6月1日	本荘市全域・岩城町・大内町・東由利町・由利町	秋田南	秋田市	1989年11月8日	秋田市13地区
横手	横手市	1984年7月1日	横手市全域・平鹿町・大森町・雄物川町・山内村・大雄村	矢島	矢島町	1993年3月11日	矢島町・鳥渡町
鷹巣	鷹巣町	1984年9月1日	鷹巣町・田代町	十文字	十文字町	1998年5月29日	増田町・十文字町・東成瀬村
五城目	八郎潟町	1984年10月16日	五城目町・井川町・八郎潟町・飯田川町・大淵村	田沢湖	田沢湖町	1998年10月16日	田沢湖町6地区
鹿角	鹿角市	1984年11月16日	鹿角市全域・小坂町	扇田	比内町	1998年5月27日	大館市7地区・比内町
二ツ井	二ツ井町	1984年12月1日	二ツ井町・藤里町	新屋	秋田市	2002年7月1日	秋田市4地区
湯沢	湯沢市	1985年4月1日	湯沢市全域・雄勝町・福川町・羽後町・菅瀬村	泉	秋田市	2002年10月1日	秋田市10地区
大曲	大曲市	1985年6月1日	大曲市全域・太田町・千畑町・仙北町・穴鷲町・仙南村・南外村	広面	秋田市	2003年8月1日	秋田市5地区
角館	角館町	1985年6月1日	角館町・中仙町・西木村・田沢湖町5地区	卸町	秋田市	2003年8月1日	秋田市5地区
秋田北	秋田市	1985年11月21日	秋田市12地区				

注) 営業所は上から順に開設順に並べた。

(2003年9月聞き取り調査より作成)

IV Y社の宅配便集配システムの変遷

1. 1981年の宅配便集配システム

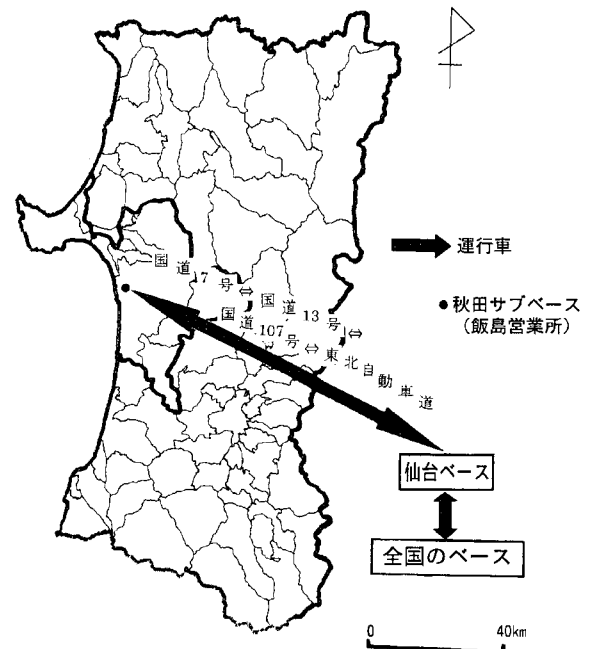
Y社の秋田支店は、1981年9月に開設された⁹⁾(第1表)。当時の秋田県におけるY社の事業所は、秋田支店のみであった。また、宅配便の集配作業が行われていた地域は、第2図に示された一部の地域に限られていた。

この当時の集配システムについて、第2図に示した。特徴としてあげられることは、集配車が軽トラックであったことである。当時、Y社はこれらの地域で、2t車による集配作業を行う免許を保有していなかった。また運行車に関しても、Y社は秋田県内に路線免許を保有していなかった。そのため仙台ベースまでの輸送は、東北地方を基盤に置く三八五貨物によって行われていた。

当時の秋田サブベースのような役割を担うサブベースを、第1期サブベースと定義する。この時期には、サブベースの管轄地域内に立地する営業所は、サブベースと同じ建物内に同居する営業所1カ所のみに限られていた。つまり、第1期サブベースを拠点とする集配システムでは、サブベースー営業所間の横持車⁹⁾による荷物の輸送を必要としなかった。

2. 1985年の宅配便集配システム

1985年6月の角館営業所開設により、秋田県全域が宅配便取扱地域となった。同年の集配システムを第3図に示した。特徴としてあげられることは、す



第2図 1981年の宅配便集配システム

(2003年9月聞き取り調査より作成)

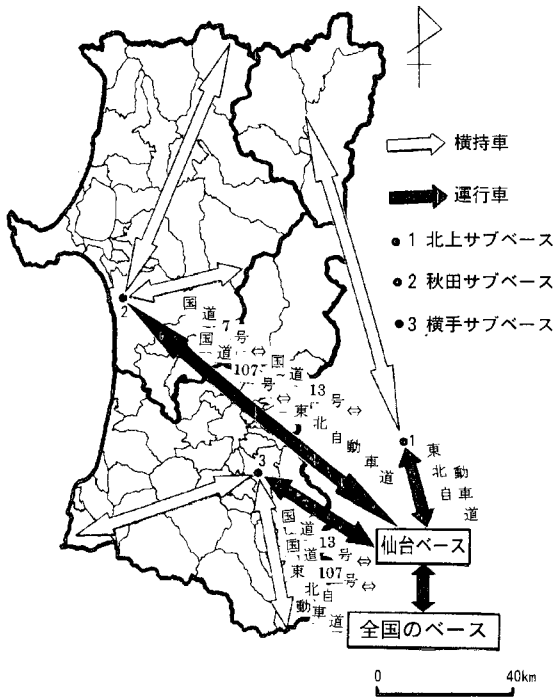
べての輸送がベース、サブベース、営業所を介して行われていた点である。秋田県内は北上サブベース、秋田サブベース、横手サブベースのいずれかの管轄地域に属し、なおかつ秋田県全域が仙台ベースの管轄地域でもあった。

このような役割を果たすサブベースを、第2期サブベースと定義する。当時のサブベースは、営業所とベースの間に位置し、それぞれの管轄地域内にお

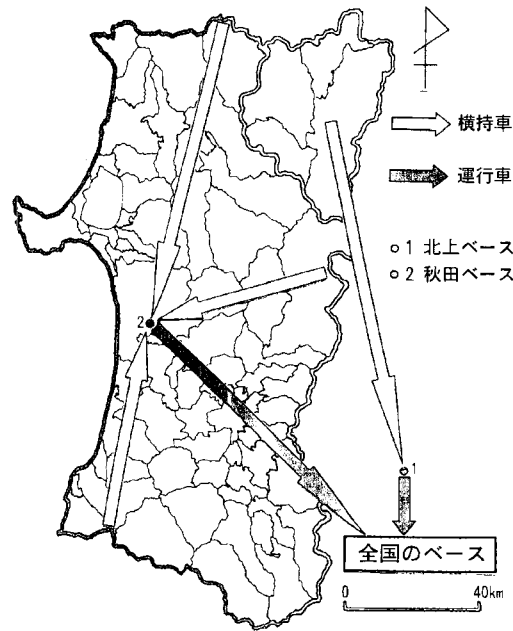
いて、横持車による営業所への荷物の輸送、および仙台ベースへの運行車による荷物の輸送を行っていた。

3. 1986年の宅配便集配システム

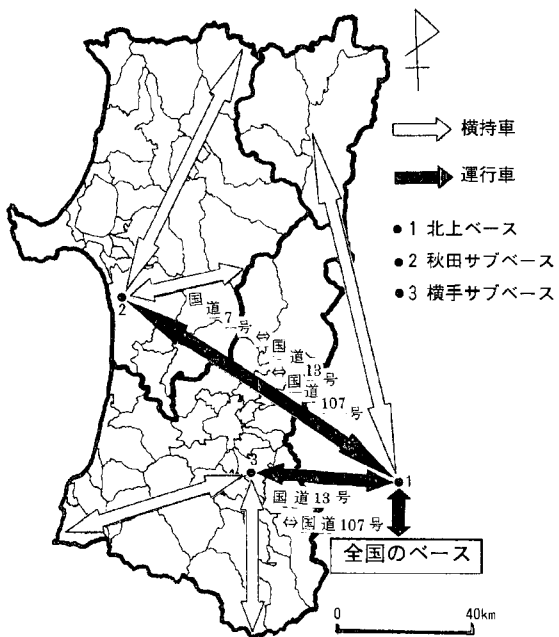
1985年11月、岩手県に北上ベースが開設された。これにより、秋田県内に初めてベース直轄の地域が出現した。それは従来、北上サブベースの管轄地域であった鹿角市と大館市付近の地域である（第4図）。



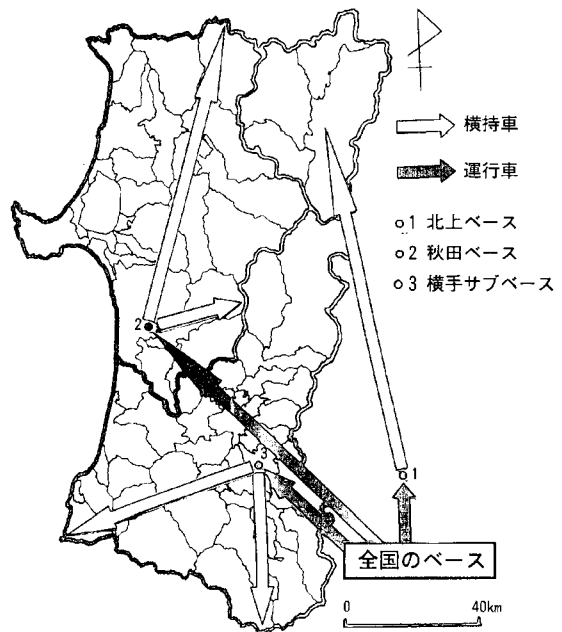
第3図 1985年の宅配便集配システム
(2003年9月聞き取り調査より作成)



第5図 2003年の宅配便集配システム（集荷）
(2003年9月聞き取り調査より作成)



第4図 1986年の宅配便集配システム
(2003年9月聞き取り調査より作成)



第6図 2003年の宅配便集配システム（配達）
(2003年9月聞き取り調査より作成)

北上ベースの管轄地域で行われる輸送こそが、まさに Y 社が確立しようとしてきた集配システムであった (第 1 図)。秋田サブベースと、横手サブベースの管轄地域も、仙台ベースから北上ベース管轄地域に属することとなり、それぞれのサブベースから出された荷物は、北上ベースを経由して、全国各地のベースへと輸送された。

4. 2003年の宅配便集配システム

1989年11月、秋田ベースが開設された。これにより、第 5 図と第 6 図に示すような集配システムが完成した。現在の、秋田県における集配システムの特徴は、配達時に限りベースの役割を果たす、横手サブベースが存在することである。このような機能を持つサブベースを、第 3 期サブベースと定義する。第 5 図と第 6 図に示すとおり、横手サブベース管轄地域における発着の荷物は、集荷または配達によって輸送ルートが異なる。

V おわりに

Y 社の宅配便集配システムからみると、秋田県は全国的に最も特徴のある地域である。秋田県のように、ベースの管轄地域が県境を越える事例は、全国でも 7 府県のみである。さらに、サブベースが設けられている事例も 5 道県に限られる。これら 2 つの条件を満たすのは、全国で秋田県が唯一である。

Y 社の宅配便集配システムは、宅配便の取扱個数、高速自動車道路の整備状況の影響を受けて変化してきた。最良の集配システムを形成するために、Y 社では時期によって異なる機能を持つサブベースを設置し、ベースの役割を補ってきた。

本稿の作成に当たり、秋田大学教育文化学部の松

村公明先生より貴重なご助言を頂きました。資料収集および聞き取り調査では、ヤマト東北ホームコンビニエンス秋田引越支店の蒲田隆一氏に、温かいご協力を頂きました。末筆ながら厚く感謝申し上げます。

注

- 1) 1923年に開始した事業である。三井呉服店とは、現在の三越百貨店にあたる。
- 2) 現在の路線事業に当たる。後の道路運送法に定める路線事業の 3 条件「定時・定路線・積み合わせ」を完全に満たすシステムであった。
- 3) 小型の 2t 車である。
- 4) 10t 車の大型トラックである。
- 5) 当時の秋田支店は、営業所とサブベースの 2 つの機能を兼ね備えていた。それぞれの名称は、飯島営業所と秋田サブベースである。
- 6) ベースおよびサブベースと営業所間の輸送を担当するトラックである。4t 車および 10t 車が使用されている。

文 献

- 佐藤七鐘 (1999) : 栃木県における宅配便事業の展開. 宇大地理, 第 2 号, 43-52.
- 佐藤亮一 (1988) : 宅配便システムの構造とその発展—「宅急便を例として」—. 経済地理学年報, 第 34 卷, 267-278.
- 富田和暁・本間一江 (1990) : 宅配便流通にみる空間の組織化の分析—神奈川県的事例を中心として—. 人文地理, 第 42 卷, 66-81.
- 仲山晃代 (1985) : 急成長する宅配便輸送. 地理, 第 30 卷, 86-95.